



Prime-Cache & Pro-Cache Software v1.3 Release Notes

バージョン v1.3は、Pro-Cacheシリーズでライブラリオプションを使用するための機能が追加されました。また、様々なシステム上の問題とパフォーマンスの改善を含むソフトウェアリリースです。

このソフトウェアでシステムを運用する際は、必ず最新のドキュメントを参照してください:

このリリースには最新版のソフトウェアに対応したマニュアルが含まれています。本体のネットワーク名を変更していない場合は、ブラウザーから下記にアクセスすることで確認できます。

http://archiveXX.local/User_Manual.pdf (XXは、シリアルナンバーの末尾2桁です。)

バージョン1.3に含まれる追加機能および改善点

Pro-Cacheシリーズでライブラリオプションの使用が可能になりました。

- ・ ファイルマネージャにPro-Cache本体のドライブとLibrary 24のドライブを選択するためのメニューが追加されました。
- ・ ライブラリオプションを使用するために、様々なユーザーインターフェイスが追加されました。詳細はv1.3マニュアル（英語）をご覧ください。

ブラウザが「スクリプトに起因する遅延」のエラーを通知する問題を解決しました。

- ・ クライアント環境の設定によっては、転送リストに数千のアイテムが表示された場合にブラウザが問題を通知する場合があります。そのため、セッションの一部のみ表示するよう変更されました。
- ・ 転送リストのタイトル表示の横に「全てを表示」というリンクが追加されました。このリンクは、新しいウィンドウを開いて、現在のテーブルが挿入されてからの転送の履歴を表示します。このウィンドウの内容は自動的に更新されません。

Web GUIからCache-A共有ボリューム全体にアクセス可能になりました。

- ・ ソースディレクトリリストの下部のメニューから、Cache-A共有全体にアクセスできるようになりました。
- ・ これによって、ファイルがCache-A共有のどこにあってもWeb GUIからアーカイブすることが可能になり、クライアントで共有ボリュームをマウントする必要がなくなりました。

このリリースには以下の修正や改善も含まれています。

- ・ ロケーションデータのアップデート作業は正しくキャンセルされるようになりました。
- ・ テーブルディレクトリのカatalog表示が高速化されました。
- ・ 「ファイルの自動削除」機能には若干の問題があったため、この機能を廃止しました。



Prime-Cache & Pro-Cache Software v1.3 Release Notes

運用上の注意点

注意点：LTOテープの容量以上のデータをテープまたはVTAPEにコピーしようとした場合でもシステムからの警告はありません。（Tape Spanningがオンに設定されている場合には問題ありません）

対策：挿入されているLTOテープの空き容量（テープ情報ウィンドウ）および、VTAPEの使用状況（システムステータスページ）を常に監視して手動でアーカイブの容量を管理してください。

テープメディアの扱い上、可変なブロックサイズ利用率、TARやファイルのオーバーヘッドサイズ、潜在的な不良ブロック領域等の可能性を考慮する必要があるため、LTO-4テープの場合は最大740GB、LTO-5テープを使用している場合は1,425GB以上にならないようにアーカイブサイズを調整していただくことをお勧めします。

Tape Spanningを使用する場合は、必ずアーカイブするのに必要な容量分のテープカートリッジを用意してから行ってください。テープを用意せずにこの作業を行った場合、アーカイブの作業は失敗しTOC情報が失われてしまいます。

注意点：システムが何も処理していないように見えても、実際にはアーカイブ作業中の可能性があります。

対策：システムを終了または再起動する前に以下の点に注意してください。

- ・ File ManagerのTransfer Listの右上にあるDrive Statusインジケータを確認してください。
- ・ ブラウザウィンドウの内容を再度読み込み、最新の状態に更新してください。
- ・ 本体フロントパネルにあるDriveステータスインジケータが消灯していることを確認してください。オレンジ色に点灯している場合は、システムが動作しています。この時に電源を落とすとアーカイブに影響する可能性があります。
- ・ システムを終了する場合は、ブラウザのメインメニューからShutdownを選択するか電源ボタンを短く押してください。ボタンを長押しする強制終了は非常用の機能です。
- ・ 定期的なファイルシステムチェックのため、起動に時間が掛かる場合があります。フロントパネルのディスクインジケータが点滅している場合、この作業を止めないでください。ファイルシステムに深刻なダメージを及ぼす可能性があります。

注意点: eSATAドライブはホットスワップに対応していません。

対策：eSATAドライブを使用する場合は以下の順に接続を行ってください。

- ・ まずeSATAドライブを接続してからドライブの電源を投入し、作動していることを確認してください。
- ・ その後にCache-Aシステム電源を投入するか、再起動して下さい。

ExpressCard接続やUSB接続のデバイスはホットスワップに対応しているので、デバイスが読み書きをしているとき以外は、いつでも接続したり取り外したりする事ができます。

既知の問題

問題：MacOSフォーマットの外付けストレージデバイスへの書き込みは、Mac OS Extended、Case-Sensitive (Not Journaled) [Mac OS 拡張（大文字/小文字を区別、ジャーナリング無し）]フォーマットのものに限られません。

回避方法：MacOSフォーマットの外付けストレージデバイスへ書き込む必要がある場合、あらかじめディスクユーティリティを使って、“Mac OS Extended、Case-Sensitive” [Mac OS 拡張（大文字/小文字を区別）] フォーマットに設定してください。読み込みはどのMacOSフォーマットであっても可能です。



Prime-Cache & Pro-Cache Software v1.3 Release Notes

問題：Multiple Volumesモード（Tape Spanning）では、Write Verifyがオンの状態でフォルダ階層が深いデータをアーカイブしようとしている場合、テープをまたぐ箇所ファイルに問題が発生する可能性があります。

回避方法：いくつかのファイルが複数コピーされてしまうを防ぐために、Tape Spanning機能を利用する場合はWrite Verify機能をオフにします。また、フォルダ階層の深い所にあるファイルがテープをまたいで記録された場合、リストアする際に間違ったディレクトリにこのファイルが復元されるエラーが発生する可能性があることに注意して下さい。

問題：Mac OS Xシステムから直接VTAPEフォルダに多くのファイルをコピーした場合、ファイル長が0のファイルがアーカイブされてしまう可能性があります。

回避方法：Mac OS XからVTAPEにファイルコピーする場合はフォルダに格納してから行うか、共有ボリュームのルートにコピーした後にVTAPEフォルダへ移動させて下さい。

問題：VTAPEフォルダの名前を変更する事によってテープボリュームの名前を変更をすることは可能ですが、この方法は必ずしも正しく動作するとは限りません。

回避方法：テープボリュームの名称を変更する場合は、常にファイルマネージャの“Menu”ボタンから“Rename”を選択して下さい。

問題：カタログのバックアップを復元するためのGUIが用意されていません。

回避方法：将来のバージョンで対応予定です。バックアップから復元する必要がある場合は、ASK-DCCテクニカルサポートにコンタクトしてください。

問題：アーカイブセッションをキャンセルしても、テープへの転送が停止しないことがあります。一時的に停止してもすぐに転送を再開してしまいます。

回避方法：現状では回避方法はありません。セッションをキャンセルし続けるか、システムを再起動してください。
注意：いずれにしても、アーカイブやリストアのセッションをキャンセルした場合、ファイルの転送は不完全に終わり、結果としてファイルの損失が起こる事に注意してください。

問題：Safariブラウザ上では、Cache-Aシステムのタイムゾーンではなくクライアントのタイムゾーンが表示されません。

回避方法：ありません。しかし、Cache-Aシステムとクライアントマシンが同じタイムゾーンに設定されていれば問題にはなりません。